

福音書を読む (聖書人になりたい・シーズン7)

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

耳のある者は聞け

マタイ福音書11:2-16:12

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

マタイ福音書全体の段落構成

- 1) 1:-4:17 ヨハネとイエス
- 2) 4:18-11:1 主イエスの教えと力あるあざ (悔い改めよ)
- 3) 11:2-16:12 主イエスの教えと力あるあざ (従うかつまずくか)
- 4) 16:13-22:14 「天の御国が近づいた」
- 5) 22:15-25: 「天の御国が近づいた」
- 6) 26:-28: 十字架と復活

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

悔い改めるのか 逆らってつまずくのか

- 1) 1:-4:17 ヨハネとイエス
- 2) 4:18-11:1 主イエスの教えと力あるあざ (悔い改めよ)
- 3) 11:2-16:12 主イエスの教えと力あるあざ (従うかつまずくか)
- 4) 16:13-22:14 「天の御国が近づいた」
- 5) 22:15-25: 「天の御国が近づいた」
- 6) 26:-28: 十字架と復活

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

11:2-16:12の段落構成

- ヨハネの話 (預言者の声に聞け) につづいて 11:2-19
 - 1) 力あるあざ 対パリサイ人律法学者 11:20-12:45
 - 2) 知恵の教え 対弟子と群衆 13:1-13:53
- ヨハネの話 (預言者を迫害する) につづいて 14:1-12
 - 3) 力あるあざ 対弟子と群衆 14:13-36, 15:21-39
 - 4) 偽善の教え 対パリサイ人律法学者 15:1-20, 16:1-12

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

11:2-16:12の段落構成

- ヨハネの話 (預言者の声に聞け) につづいて 11:2-19
 - 1) 力あるあざ 対パリサイ人律法学者 11:20-12:45
 - 2) 知恵の教え 対弟子と群衆 13:1-13:53
- ヨハネの話 (預言者を迫害する) につづいて 14:1-12
 - 3) 力あるあざ 対弟子と群衆 14:13-36, 15:21-39
 - 4) 偽善の教え 対パリサイ人律法学者 15:1-20, 16:1-12

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

ソドムの土世のほうか、さばきに耐えやすい

"それからイエスは、ご自分が力あるあざを数多く行った町々を責め始められた。彼らが悔い改めなかったからである。"

"カペナウム、おまえが天に上げられることがあるだろうか。よみにまで落とされるのだ。おまえのうちで行われた力あるあざがソドムで行われていたら、ソドムは今日まで残っていたことだろう。おまえたちに言う。さばきの日には、ソドムの土世のほうか、おまえよりもさばきに耐えやすいのだ。"

マタイの福音書 11章20,23-24節

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

1) 力あるあざ 対パリサイ人律法学者

"すると見よ、片手の萎えた人がいた。そこで彼らはイエスに「安息日に癒やすのは律法にかなっていませんか」と質問した。イエスを訴えるためであった。・・・パリサイ人たちは出て行って、どうやってイエスを殺そうかと相談し始めた。"

マタイの福音書 12章10,14節

"そのとき、悪霊につかれて目が「見えず」、口もきけない人が連れて来られた。イエスが癒やされたので、その人はものを言い、目も見えるようになった。・・・これを聞いたパリサイ人たちは言った。「この人が悪霊どもを追い出しているのは、ただ悪霊どものかしらベルゼブルによることだ。」"

マタイの福音書 12章22,24節

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

2) 知恵の教え 対弟子と群羊集

"「あなたがたには**天の御国の奥義**を知ることが許されていますが、あの人たちには許されていません。」 13章11節

"良い土に蒔かれたものとは、みことばを聞いて小悟る人のことです。本当に実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結びます。」 13章24節

"**天の御国**は次のようにたとえられます。ある人が自分の畑に良い種を蒔いた。ところが人々が眠っている間に敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて立ち去った。” 13章23-25節

"「**天の御国**はからし種に似ています。」 13章31節

"「**天の御国**はパン種に似ています。 13章33節

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

3) 力あるあざ 対弟子と群羊集

"そして、群衆に草の上に座るように命じられた。それからイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神をほめたたえ、パンを裂いて弟子たちにお与えになったので、弟子たちは群衆に配った。・・・食べた者は、女と子どもを除いて男五千人ほどであった。" 14章19,21節

"夜明けが近づいたころ、イエスは湖の上を歩いて弟子たちのところに来られた。" 14章25節

"しかし、彼女は言った。「主よ、そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパン屑はいいただきます。」" 15章27節

"すると、イエスは彼らに言われた。「パンはいくつありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」そこで、イエスは群衆に土地面に座るように命じられた。・・・食べた者は、女と子どもを除いて男四千人であった。" 15章34-35,38節

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

4) 偽善の教え 対パリサイ人律法学者

"しかし、口から出るものは心から出て来ます。それが人を汚すのです。悪い考え、殺人、姦淫、淫らな行い、盗み、偽証、ののしりは、心から出て来るからです。" 15章18-19節

"あたしが言ったのはパンのことではないと、どうして分からないのですか。パリサイ人たちとサドカイ人たちのパン種に用心しなさい。" そのとき彼らは、用心するようにとイエスが言われたのはパン種ではなく、パリサイ人たちやサドカイ人たちの教えであることを悟った。" 16章11-12節

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

イエスは来るべき方 義なるさばき主

- ヨハネの話 (預言者の声に聞け) につづいて 11:2-19
 - 1) 力あるあざ 対パリサイ人律法学者 11:20-12:45
 - 2) 知恵の教え 対弟子と群衆 13:1-13:53
- ヨハネの話 (預言者を迫害する) につづいて 14:1-12
 - 3) 力あるあざ 対弟子と群衆 14:13-36, 15:21-39
 - 4) 偽善の教え 対パリサイ人律法学者 15:1-20, 16:1-12

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

イエスは来るべき方 知恵ある義なるさばき主

"南の女王が、さばきのときにこの時代の人々とともに立って、この時代の人々を罪ありとします。彼女はソロモンの知恵を聞くために土世の果てから来たからです。しかし見なさい。ここにソロモンにまさるものがあります。"

12章42節

"ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて言った。「この人は、こんな知恵と奇跡を行う力をどこから得たのだろう。」"

13章54節

福音書を読む (聖書人になりたい・シーズン7)

#66 耳のある者は聞け (マタイ11:2-16:12)

みことばに生きる聖書人が
生まれ増えていきますように

チャンネル登録と高評価で応援お願いします